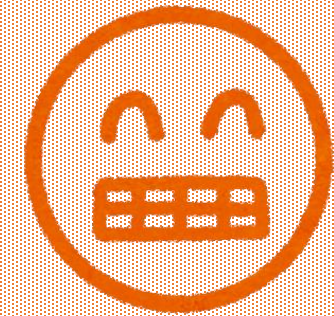


六郷助けあいプラットフォーム

話し合いの場



令和元年10月1日（火）

本日のタイムスケジュール

時間	内容
18:30	前回の振り返りと今回の流れの説明
18:45	ウォーミングアップ&アイデア出し
19:15	休憩
19:25	話し合い【地域活動の立ち上げ・継続のために必要なしくみ】
20:10	話し合いのまとめ
20:30	終了



今年度の報告のキーワード

多世代交流

- ・居場所には色々な人がいることが強み
多世代交流をすることで地域に根づく文化ができる
- ・子ども×高齢者のイベント
小さなうちから高齢者のことに興味を持ってもらう

複合的な相談

- ・相談機関に、専門外の相談が持ち込まれる
8050問題や、70 40 15問題など新たな課題
や複合的で困難な課題が起きている。
地域で、どのように支えるか。発見できるか

交流・連携企画

- ・いこいの家×保育園や読み聞かせ
包括×児童館
- ・空き店舗の活用
- ・イベント協力・チラシや広報の協力

居場所・見守りのしくみ

- ・実際に居場所に困っていそうな方が
来た時にどうSOSをキャッチするか
- ・商店街を子どもの居場所にできないか
- ・昔の個人店の声かけや見守り機能を
コンビニでできないだろうか



前回の話し合い

【1グループ】

普段の活動から見えてくる地域課題の共有

- ・遊び方の変化か夏休み中に子どもを見かけなくなった。 ・この酷暑にエアコン未設置の世帯があり心配
- ・子どもがお金の使い方を理解していない子が増えた印象がある
- ・子どもだけで入れる店が少ない。 ・相談できる場所がないのではなく、情報を知らないのではないか
- ・地域での交流の場がない。多世代で集える場所がない。
- ・顔の見える関係を築けなくなった。 ・ふれあいパーク活動を通して公園で遊ぶ小学生が増えた
- ・イベントでママ友が集まってくる。ママたちは話したいので、子どもに映画等を見せて、その間におしゃべりができるよう、親子での居場所が必要。
- ・外国籍の親にお弁当の文化が理解できず、現金を持ってくる子がいる。
- ・コンビニのイトインで昼食をとっている子どもを見る。

深めたい課題について 【子どもたちの夏休みの行く場所がない】

- ・夏休みに学校を活用できないか。子どもだけで行ってはいけないという場所が多い。 ・球技ができる場が少ない。
- ・なぜ、学校が使えないのか。先生や管理者は夏休みでも学校にいるはず。夏休み開放してもらえれば球技など体を動かす遊びができる。子どもに身近な場所でもある。また長期休みの後に学校にいきづらくなることが避けられるのではないか。
- ・子どもの居場所は、作る段階から子どもと一緒に考える方が良くはないか。大人が子供のためにと考えたものと、子どもが希望するものは違うのではないか。



前回の話し合い

【2グループ】

普段の活動から見えてくる地域課題の共有

- ・子どもの参加が固定化してしまっている(町会行事等) ・町会・自治会の仕事が多すぎる。人手不足。
- ・駄菓子屋を開催したが、人手の問題、収支の問題がある。
- ・家庭・学校・地域の連携をより強固にしていく必要がある。
- ・安全に関する課題(夜間街灯や、駐車車両の課題、子どもが安全に通れない)
- ・商店街がだんだんと活気がなくなっている。 ・子どもの声で地域から苦情を受ける、理解してもらえていない。
- ・子どもが自由に振るまえる環境がない ・子ども同士の関わりが減っている

深めたい課題について 【町会・自治会・商店街の在り方】

- ・町会・自治会の仕事が増えすぎていて、人材が不足している。 企業の定年が遅くなるにつれて、町会の役員は高齢にならざるを得ない。町会の仕事の業務量が多いため、人を確保するのが難しい。
- ・町会では、防災のことなど地域の重要な役割を担っているがそのことを地域住民に伝えられていない。
- ・地域の方が町会に求めている活動はなにか？町会が必要と認識されていないのではないか。
- ・地域の活動が町会に認識されていない部分もある。もっと協力関係が築けるようになると良い。
- ・町会がなくなったら困る人が出てくるのか、それとも別の組織などが対応するのか、なくしてみるのも方法かもしれない。 ・町会や自治会の求められている事と、行政が担当すること、地域住民自らが行うことなどを整理していくのも必要かもしれない。



前回の話し合い

【3グループ】

普段の活動から見えてくる地域課題の共有

- ・公園にゴミ箱がない。夏休み中は特にゴミが目立つ。
- ・高齢者向けイベント時にルールを守らない参加者が多かった。
- ・夏祭りの時に親子連れで大人がアルコールを飲んで道路にたむろしていた。
- ・夏休みのプールが暑すぎて中止になっている。子どもの行くところがない。
- ・夏休み1年生が夜7時に外にいた。親の仕事が遅いとこのことで地域で見守りを行った。
- ・夏休み中、ひとり親や不登校児等の居場所で活動してみて訳ありの家庭の子どもたちには居場所がないと感じた
- ・夏休み学童等へいかず、1日中外で遊んでいる子がいた。

深めたい課題について 【子どもの居場所について】

- ・いこいの家、会議室が子ども向けでも半日1500円程度で貸せる。但し、事業内容と代表者が必要。
→事業内容、輪投げや昔遊びを高齢者と一緒に遊ぶ。
→代表者の確保、責任を負担に感じ、やり手がいないのでは。社協で募集できるか。
→お金の確保、社協の助成金3万円。3万円は少ないのではないか。→場所の確保、区の空き家等。
- ・まつりなどの単発ではなく、継続的に活動できる具体的なプランを立てる。



話し合いの内容

地域課題の共有



◎見えてきたこと

- 多世代交流を行うことで地域に文化が根づく。
- 世代を超えた団体間の連携での多世代交流
- 相談機関への複合的な相談・新たな課題の出現

活動したからこそ見えてきた課題



◎見えてきたこと

- 活動を継続するためのヒト・モノ(場所)カネの工夫
- SOSが捉えられる地域の居場所の在り方
SOSの発信ができる環境

課題を整理

- ◎多世代交流・団体間の連携の必要性・有効性
- ◎複合的な課題・相談の発見、発信
- ◎活動を継続するための課題(ヒト・モノ・カネ)
- ◎SOSが捉えられ、発信できる居場所のしくみ

新たに出てきた4つの課題

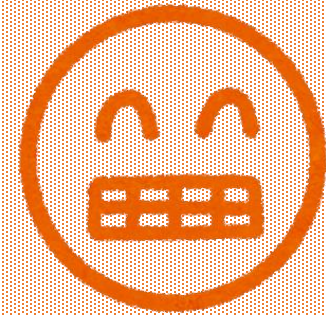
新たな課題についての考察

●多世代交流には、団体の連携が有効
⇒しかし、継続した実施には、壁がある。

●複合的な課題のある人を早期に相談につなげるしくみが地域に必要
⇒しかし、「交流の場」でSOSを捉えるしくみ・工夫や発信できる環境が必要

上記の壁をどう乗り越えるかが課題

② 話し合いの場



**「地域活動の立ち上げや継続の
ために必要なもの、仕組み」**

多世代交流のしくみのまとめ①

①事業継続の方法

- ・駄菓子だけでは、赤字になってしまうのであればプラスなにかを販売することや、スペースを貸し出して出店料をとったり、他の団体とスペースをシェアすることで費用を抑える方法もある。
- ・また、駄菓子屋の後に駄菓子居酒屋を開催してそこで利益を上げる等の方法も。大人が楽しく募金できる方法を考えて実施することはどうか。

②SOSが発見できる多世代交流の方法について

- ・多世代交流については、共通に関心のあるものや関われるものが良い。例えば食事や盆踊りなど。
- ・SOSをつかむためには、単純に多くの人に知ってもらうことも大切。広報をしていくことや、相談先の一覧を配布することなど。
- ・課題が多様化しており、一つの団体では対応できない。常に地域で連携できる状況が必要。
- ・駄菓子屋というのは、子どもが気軽に行ける唯一の店だった。今の時代はコンビニがそうなのではないか？コンビニが駄菓子屋のような顔の見える関係にならないだろうか。

多世代交流のしくみのまとめ②

①SOSのキャッチの方法について

- ・SOSを出している人はいてもつなげなければSOSとは認識されない。
- ・受け取る側がなんとなく気付いていても発信していない、できない。
- ・電子媒体やインターネットなどでの関わりが増えている。駄菓子屋のような発信できる場、楽しい場を地域に増やすことでSOSが発見できるようになるのではないかな。

②広報について

- ・だれでも参加できることが強みなので、プラットフォームなど横のつながりを活かした広報をしていくと良いのでは。
- ・バザーをやってみるなど、他のイベントとセットにして広報していくことで認知度があがるのではないかな。

③集客について

- ・チラシがポジティブがやっているという感じが強いので「協力」に「六郷助けあいプラットフォーム」を入れてはどうか
- ・場所が分かりにくいので、チラシの地図を工夫したり、外観を目立たせる工夫をしてはどうか。場所の移動も含めて検討しても良いかもしれない。
- ・来場者へ、なにで知ったのかアンケートを取って広報の見直しに役立てる。
- ・親世代への周知をすることで子どもは来てくれるのではないかな。

地域活動立ち上げ・継続のための課題のまとめ

【収支の課題】

- ・福祉的な事業は、どうしても赤字経営になってしまう。収入がなかなか増やせない
- ・支出についても、場所代や食材等の費用がかかる。ボランティアさんに、謝礼や食事代も出せない。

【場所の課題】

- ・安価に借りられる場所・人が集まれる場所が少ない
- ・商店街等の空き家もなかなか利用できない。そういった情報も分からない。

【人材の課題】

- ・コアとなるメンバーだけで継続していくのは人手が足りない。当日ボランティア以外の業務負担も多い。
- ・町会・自治会なども人手不足。高齢化も深刻。新たな担い手の参加が必要。

【広報の課題】

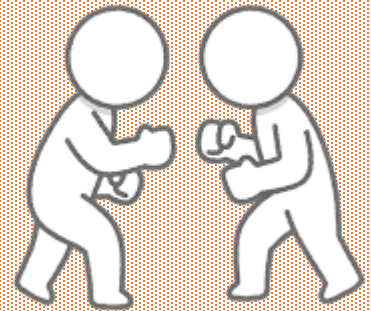
- ・参加者・人がなかなか集まらない。周知の方法も町会掲示板等に掲載してもらうなどの工夫が必要
- ・プラットフォームの名前での広報や社協などの公的な名称での募集が効果的か？

ウォーミングアップ&アイデア出し対決！！

**テーマに対する、アイデアを出して、その
アイデアの数で勝負！**

**一番多くのアイデアを出したグループが
勝利です！**

ふせんにマジックで書いた個数で勝負



アイデアの質は問いません、大切なのは数

練習

テーマ 「行きたくなるイベントの要因」

例：近い・安い・^{でみせ}出店・・・・



ふせんにマジックで書いた個数で勝負

制限時間は【3分】

ウォーミングアップ & アイデア出し

**やり方：各グループで勝つための作戦を
考えてください(5分)**

本番まで書かない。10分勝負！

役割分担がポイント！

(発表者・司会・書く人・やり方・・・)

アイデアの質ではなく数で勝負！！！！

ウォーミングアップ & アイデア出し

地域活動の立ち上げ・継続が上手くいくと思うアイデアを各グループで「とにかくたくさん」挙げてください。

ふせんにマジックで書いた個数で勝負
制限時間は【10分】



地域活動継続のための課題の乗り越え方

事業実施の工夫

- ・本来事業の他の収益事業
- ・スペースのシェア
- ・寄付の募集
- ・ターゲットに合わせた広報
- ・アンケートの実施
- ・広報媒体の工夫
- ・実施場所の変更・工夫
- ・協力者の募集

ネットワークでの協力

- ・事業当日の協力
- ・運営会議等への参加
- ・アイデア出し
- ・物品等の貸し出し
- ・口コミ・広報協力
- ・連携した事業・イベント

支援のしくみ

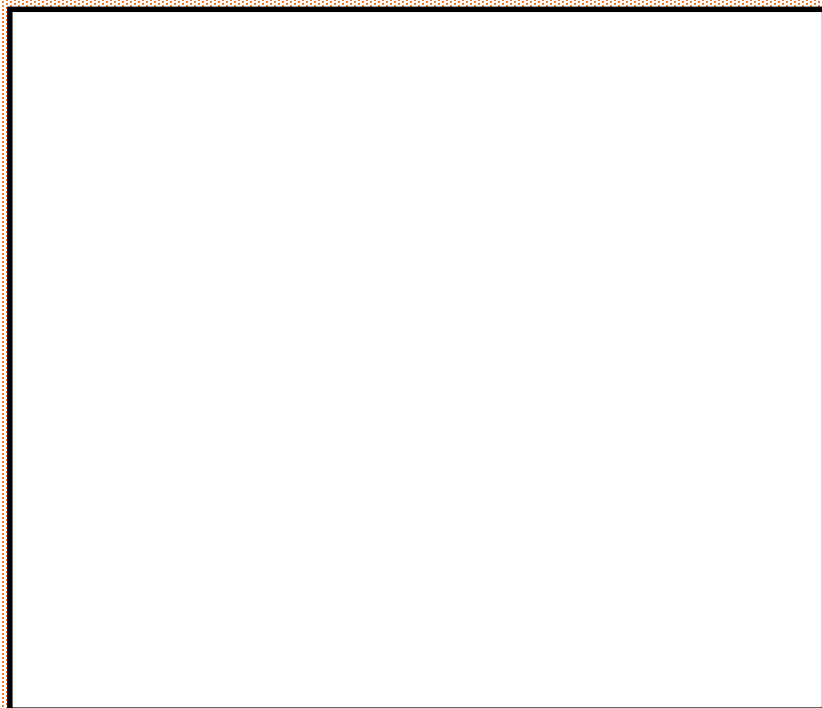
- 【行政等】
- ・情報提供
- ・助成金
- ・広報協力
- ・寄付物品
- 【地域等】
- ・口コミ 広報
- ・ボランティア
- ・協力者

ここが前提だが、安定しない
ここだけでは難しい

情報がない
手続きが煩雑

地域活動継続のための課題の乗り越え方

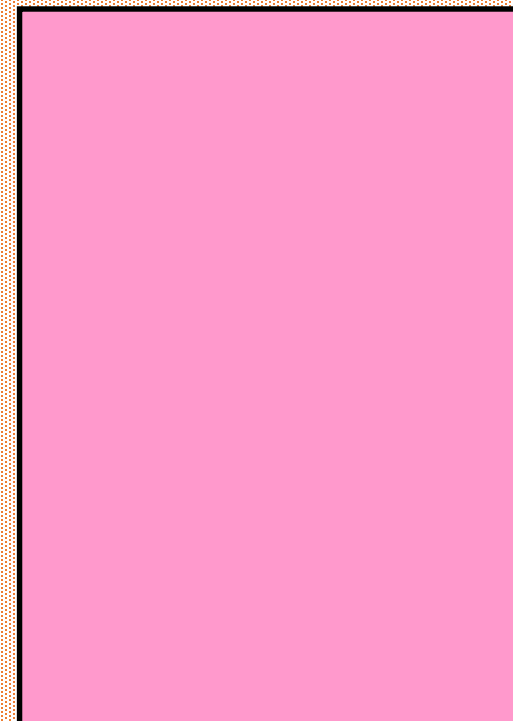
事業実施の工夫



ネットワークでの協力



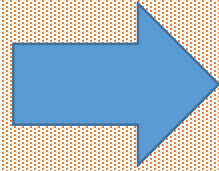
支援のしくみ



出したアイデアをグループで分類してください！

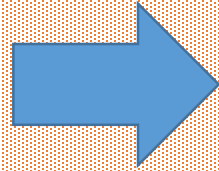
支援のしくみの最低限の条件

公益性



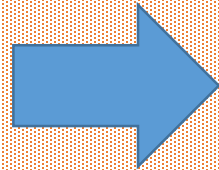
多くの人のためになること。社会課題に対する取り組みなど、「事業の目的」の明確化が必要

公平性



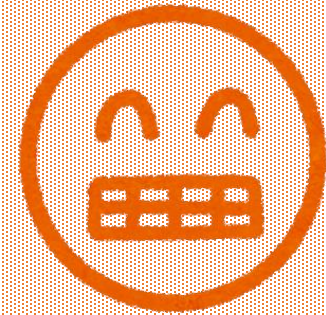
多くの人が公平に利用できるしくみ。「ひとつの事業・六郷のみ」等はしくみ化しづらい(説明できない)。

透明性



適正にしくみが必要なところに届いているか
チェックができるか。→様々な書類が必要な理由
(不正防止)

② 話し合いの場



**「地域活動の立ち上げや継続の
ために必要なもの、仕組み」**

次回 11/5(火) 18:30~

今年度の取り組みのまとめ

